

■浜名湖エコワークショップ 「アオサ・アマモなど水草の循環の仕組みを考える」

浜名湖の環境保全団体の方々でアマモやアオサなど水草を回収、堆肥として利用していく循環の仕組みを考えるためのワークショップを開きます。話し合いだけでなく、現地の状況を目で見て

●第1回 現地調査 11月中旬 土曜日または日曜日 13:00~16:00

- ・水草を利用した浄化に関する講演会の開催
- ・浜名湖の水草の現状を把握するための現場踏査（船使用）
- ・ワークショップ形式により、水草を利用した浄化活動について意見交換



●2回目 活動報告・意見交換 2月上旬 土曜日または日曜日 13:30~16:30

※会場は未定

- ・水草を利用した浄化活動をしている団体の活動発表
- ・ワークショップ
浜名湖のアマモやアオサなど水草を利用した浄化活動や活動団体間の連携について話し合います。

■ネットワーク登録団体のご紹介

ラムサール条約など浜名湖の環境保全の気運を盛り上げる必要があります。企業・市民活動団体・個人で浜名湖の環境に興味を持ち、ネットワークの趣旨に賛同する“仲間”を引き続き増やしていきたいと考えています。仲間となる方をご紹介ください。情報交換や活動の連携をしていきたいと考えております。

【事務局からのお知らせ】

はまなこ環境ネットワークでは、活動団体の仲間を随時受付しています。ホームページから登録申請書をダウンロードしていただくか、あるいは事務局までお問い合わせください。<http://www.hamanako-kankyo.net/>

平成23年9月30日現在、65団体登録

はまなこ環境通信

歴史と文化を大切にされた地域全体の環境活動へ

はまなこ環境ネットワークでは平成17年3月の設立以来、多くの皆様のご協力を得て様々な活動を行なってきました。平成21年からは生物多様性にも注目し、ラムサール条約についての勉強会をスタートさせ、条約湿地に指定された各地域の活動も併せて学んできました。ネットワークとしての活動の質を高め、浜名湖の自然環境を守り、生態系を守る活動を地域と一体となって進めたいとの思いからです。平成22年9月には浜名湖はアマモ場を中心とした生態系の重要性が認められ、環境省からラムサール条約の登録候補地に選ばれています。

私たちが浜名湖との関わりについては、50年ほど前までの化学肥料のない時代、アマモなどの海草（モク）を収穫し、畑の肥料とする湖と畑を結んだ農業の姿があります。この時代の浜名湖は「里湖*」として生活の大切な一部であり、生活を維持ことは浜名湖の自然を守ることでした。結果として魚や鳥などの生態系も守ってきたこととなります。

現在では生活も変化し、浜名湖との関わりを感じる機会も減っていますが、依然として直接的、間接的に、多くの恵みを受けています。ネットワークではより多くの組織、人達と連携し、恵みを守るための活動を進めていきたいと思っています。

*里湖（さとうみ）とは：生活空間に隣接し、生活と密接に関わる湖

はまなこ環境ネットワーク 代表 芥川知孝



浜名湖のアマモ



アマモ・アオサの堆肥利用

第1回 浜名湖エコキッズ体験塾 2011 in かんざんじ

- ◆日時 平成23年7月26日(日) 9:30~12:00
- ◆場所 舘山寺サンビーチ海岸(浜松市西区舘山寺町)
- ◆内容 ミニ講習 浜名湖のアオサとアマモに関する説明
「アオサ・アマモ」を回収体験(村櫛の畑で堆肥として活用)
浜名湖の幸食体験
湖上観察会(遊覧船からアマモ場を観察)
ガザミの放流体験
- ◆参加者 24グループ 52名の親子
- ◆スタッフ はまなこ環境ネットワーク代表、舘山寺温泉観光協会、NPO法人はまなこ里海の会
スズキ株式会社環境課、サゴロイヤルホテル、須山建設(株)、NPO法人地域づくりサポートネット

■浜名湖のアオサとアマモに関する講話

アマモは魚が住みついたり、水をきれいにしたりする利点がありますが、湖岸に打ち上げられたアマモやアオサが悪臭を放つ困り者であるとのことです。舘山寺温泉では海岸に打ち上げられたアオサ・アマモが、観光地のイメージダウンにつながるとして、浜松市が回収しているとのことでした。

■アオサ・アマモの回収

参加者は、サンビーチ海岸に打ち上げられたアマモ・アオサや流木・ゴミなどの清掃をしました。すきやくま手を使い、親子や兄弟で協力しながら回収し、トラックに運びました。

1時間ほどで2tトラック2台分のアマモやアオサが回収されました。これを村櫛町の畑に運び、塩抜きをした後、堆肥として活用されます。昔は地域内でこのような循環ができていました。

昼食は浜名湖の海の恵みを食材にサゴロイヤルホテルさんがおいしい昼食を用意してくれました。ご馳走さまでした。

午後は、浜名湖遊覧船から湖岸の風景や水の中を観察しました。雨上がりで湖の底は見られませんでした。遊覧船を降りて、きれいになったサンビーチ海岸で漁業者によるガザミや浜名湖の漁業・漁業資源についての説明の後、約5万匹のガザミを放流しました。大きくな〜れ!



▲浜名湖遊覧船から浜名湖の環境を学ぶ



▲ガザミ(カニ)の放流を楽しむ子どもたち



▲アオサ・アマモ場の時話を聞く参加者



▲アオサ・アマモを回収する参加者

第2回 浜名湖エコキッズ体験塾 2011 in 花川オイスカ高校

- ◆日時 平成23年8月26日(金) 13:00~16:30
- ◆場所 浜松市西区和地町(オイスカ高校前の花川河口の干潟)
- ◆内容 ミニ講習 マングローブと干潟の生物について/アオサやアマモについて
マングローブ干潟の観察、干潟の清掃、マングローブの植えつけ体験
水質検査体験(花川・伊佐地川・新川の水質検査)
マダイの放流体験(5000匹)
- ◆参加者 20グループ 40名の親子
- ◆スタッフ はまなこ環境ネットワーク代表、スズキ(株)環境課、NPO法人はまなこ里海の会、オイスカ高校、NPO法人地域づくりサポートネット

■水草に関する講習

オイスカ高校の宮崎先生よりオイスカ高校の干潟への取り組みが紹介された。また、マングローブや浜名湖の干潟に生息する生きものについての説明を受けました。

■マングローブ干潟・水草の観察・清掃とマングローブの植えつけ

オイスカ高校さんから現地でマングローブの説明を聞き、マングローブに触れながら観察しました。マングローブ植林地の横に打ち上げられたアオサなどごみの清掃を行いました。きれいになったところでオイスカ高校さんが育てたマングローブの苗木を干潟に植林しました。



▲浜名湖や川の生きものを説明



▲干潟には多くのゴミが漂着



▲マングローブの植林

■水質検査(パックテスト)体験とマダイ稚魚の放流

浜名湖に注ぐ川の水質を検査し、PH、COD、りん酸、亜硝酸、アンモニウム、塩分濃度を比較しました。花川の河口にNPO法人はまなこ里海の会の協力により、マダイの稚魚5000匹を放流しました。



▲浜名湖に注ぐ川の水質検査体験



▲マダイの稚魚を放流、大喜び